

Shinzo Abe Memorial Symposium 2024

「国史 奈良の変」 私たち国民は奈良の変をどう捉えているのか

"National History: The Nara Incident"
How do we, the people, perceive the Nara Incident?



安倍晋三総理が暗殺された「奈良の変」の真相究明と 科学報告書「国史 奈良の変」の拡散に賛同いただく多 数の日本国民の皆さん いよいよ本シンポジウム開催の 運びになりました。これまでのご支援誠にありがとうござ います。

シンポジウムのテーマは「私たち国民は奈良の変をどう 捉えているのか」です。国会とマスコミが取り上げない 「奈良の変」の真相究明を国民が行いました.

今回は、戦後体制からの脱却を目指した偉大な政治家 安倍晋三総理暗殺の科学的事実=組織犯罪の証拠を 整理し、私たち国民の思いを公にしたく開催いたします.

シンポジウム・オーガナイザー 高田純 理学博士

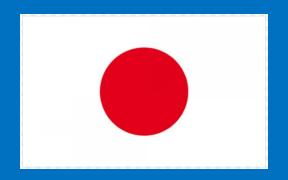
7月6日土曜 東京都 星陵会館多目的ホール

13:30開場 14:00開演 16:30閉会

主催 ターサン出版・放射線防護情報センター

共催 安倍元総理暗殺の真相を求める会

> 協賛 念舟会 偏向報道から国民を守る会 保守合同連絡協議会



安倍晋三記念シンポジウム2024 「国史 奈良の変」

令和6年7月6日 星稜会館

開催要項

文献 事前および会場内配本 国立国会図書館 公立図書館 大学図書館 蔵書 「国史 奈良の変」初版2023 第二版2024 高田純著 ターサン出版 絵本「われらの安倍さん物語 日本の誇り 安倍晋三 愛国と品格」初版2024 高田純著 ターサン出版

愛国者 参加定員80 事前登録制 防衛のため

ターサン出版カンパ券お持ちで事前登録された人ご招待 その他の人 参加費1千円 共催・協賛団体を通じて事前申し込み 参加費は当日会場受付にてお払いください 6月1日より参加お申し込み受け付け 先着で定員になり次第締め切りです

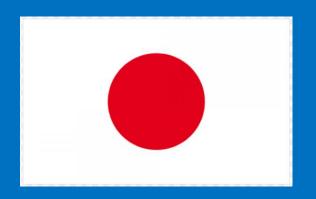
当日参加できない仲間のために ネット配信でのレポート公開も尽力 放射線防護情報センター ターサンスタジオ X@gatapi21 ChannelAJER 文化人放送局 大紀元

応援 宜しくお願いします

日本国民が制作した文献 「国史 奈良の変」「われらの安倍さん物語」







安倍晋三記念シンポジウム2024 プログラム

開会式 国家斉唱 われらの安倍さん物語

第一部 科学調查報告 「国史 奈良の変」 組織テロ 様々な証拠 高田純

第二部 シンポジウム 「私たち国民は奈良の変をどう捉えているのか」





山岡鉄秀

山口敬之

田母神俊雄



宇野博幸





松林利一 上蘭益雄

Shinzo Abe Memorial Symposium 2024 安倍晋三記念シンポジウム2024 「国史奈良の変」

開会式 国家斉唱 われらの安倍さん物語

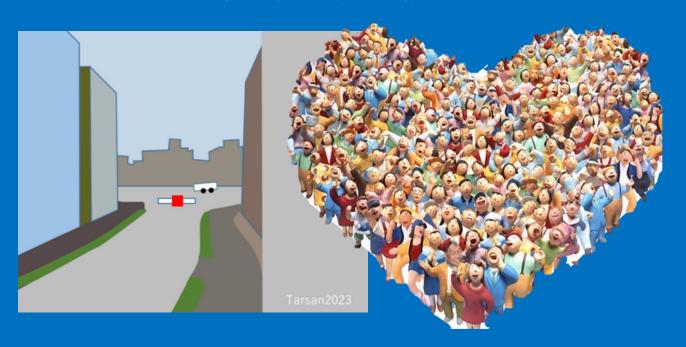
ありがとう 安倍晋三総理大臣



Shinzo Abe Memorial Symposium 2024

安倍晋三記念シンポジウム2024 「国史 奈良の変」

第一部 科学調查報告





「国史 奈良の変」 組織テロ 様々な証拠

高田純 理学博士 放射線防護情報センター代表

物理学者の私は、長年にわたり世界の核爆発災害を調査研究してきたが、よもや、疑惑満載の銃弾事件の調査まですることになるとは、思いもよらない出来事となった。日本では、国を代表する大政治家が銃撃で暗殺されたにも関わらず、真相究明に政治もマスコミも取り組まない異常な事態になった。私が関わった調査研究での最悪の隠蔽と疑惑は中共のシルクロードでの核爆発災害。その次が「奈良の変」となった。どちらも日本のマスコミは真相に迫らない。今回開催のシンポジウムでは、私のツイッターに集まった6万人の仲間と取り組んだ大事件の真相究明の科学調査結果「国史 奈良の変」となる、山上徹也単独犯と断定した警察発表とは真逆の組織テロとなる様々な証拠・事実を、参加者とともに検証する。

安倍晋三記念シンポジウム2024「国史奈良の変」

第二部 私たち国民は奈良の変をどう捉えているのか

進行 髙田純 理学博士



2022年7月8日 戦後日本の瓦解が始まった日

山岡鉄秀 情報アナリスト

2022年7月8日は日本の戦後体制が瓦解し、また、日本社会の支配構造の一端が明らかになった日であった。日本は戦後、サンフランシスコ講和条約を経て独立国となったはずであり、安部晋三の外交は日本の国際的地位を高めたはずだった。しかし、安部が非業の死を遂げるや否や、岸田政権はバイデン政権に平身低頭隷従し始める。その姿は到底独立国とは呼べないものであり、戦後日本の実態が浮き彫りになった。また、驚くべきことに我々が示した山上単独犯行説への科学的検証に基づく疑問に対し、大手主流メディアである読売新聞や産経新聞が陰謀論と決めつけて徹底的に否定してきた。特に産経新聞配下の月刊正論は医師資格を持った現役国会議員まで連れ出して執拗にこちらの論点を否定しようとしてきたが、完全にピントの呆けた内容だった。なぜそうまでして否定しようとするのか?その姿に、平時には気づかない日本の闇の深さを見たと言わざるを得ない。



真つ当な日本国民の怒りの声の集結

山口敬之 ジャーナリスト

安倍晋三元首相暗殺の真相究明を求める我々の望みは極めてシンプルだ。銃弾、弾道、死因、 医師との矛盾といった論理的な疑問点について、納得できる説明をしてほしいという事に他ならない。しかし、奈良県警は捜査の経緯や結論、起訴状の内容に関して記者会見はおろか一切の説明を行わず口を閉ざしている。奈良地方裁判所も、6/13段階では初公判の日程すら決めていない。 奈良市は事件後ほどなく暗殺現場のアスファルトを剥がしてレイアウトを変更し、慰霊碑すら建てない。 そんな中で迎える安倍元首相の3回忌。政府や自民党といった政治家群、警察を含む行政、 そして検察と裁判所という司法が、事件を風化させようとしている中、真相究明には真っ当な日本国民の怒りの声の集結が不可欠だ。



政府の姿勢は理解できない

田母神俊雄 元航空幕僚長

安倍総理の遺体解剖について当日奈良県立医科大学の福島教授が発表した内容と、翌日奈良県警が発表した内容に著しい違いがある。このことを多くの学者、評論家などが指摘しているがその後も奈良県警はこれに応えていない。私は福島教授は何の思いもなく事実を公表したが、奈良県警には思惑があって山上容疑者の犯行に見せたいという思いがあったのではないかと思う。安倍総理は多分山上容疑者の撃った弾ではなく、他から撃たれた弾丸で殺害されたのだ。山上容疑者は元海上自衛官であったことから、多くの国民は射撃技術を習得していたように思っているだろうが、年に1回の射撃訓練では素人同然であり拳銃のように銃身の短い銃で目標に命中させることは困難である。散弾銃で撃ったとそうだが何故周辺の人たちには全く命中せず、安倍総理だけが被害を受けたのか。事件を徹底的に追及しない政府の姿勢も理解できない。

安倍晋三記念シンポジウム2024 「国史奈良の変」 シンポジウム 発言要旨



警察報告の捏造全体主義

宇野博幸 元警察官 · 職務質問指導官

安倍元総理が暗殺されてから2年。日本はどんどん左傾化。日本が危ない。安倍元総理暗殺事件の警察報告は不審点、矛盾点だらけ。今回は次の2点を強く指摘する。

1 山上の真実の発砲位置はおそらくマンホールに近い所なのに奈良県警はマンホールから2-3m 西側にしている。何故か。後日、弾痕が見つかった90m先の立体駐車場と25m先の選挙カーの 看板を一直線上にしなければ矛盾が生じるから。フジテレビは山上の2回の発砲の動きが写って いる防犯カメラの映像をテレビで流したがCG化して発砲位置が分からないようにしている。

2 立体駐車場の3つの弾痕と選挙カー看板の弾痕は捏造。発砲直後、駐車中の選挙カーの金属フレームの穴は目立つ。その穴が発砲直後にあるかないかがほぼ決定的。映像があるはずなのにメディアも警察も出さない。山上単独犯説のメディアなら穴が空いている映像を出すはず。



我々保守系団体に与えられたテーマ

松林利一 偏向報道から国民を守る会代表 *

安倍元総理の功績を讃える催しは、数多く行なわれています。7月7日、櫻井よしこさんが、「安倍晋三元総理の志を継承する集い」を主催します。然しながら、暗殺事件を取り上げて、「山上単独犯行説に疑義在り」、と銘打つ催しはありません。マスコミも警察も政治家も沈黙しています。保守の多くは、「裁判のなりゆきを見たい」との姿勢です。

我々は、「国史 奈良の変」を手にしました。同書は、科学的な深い検証に基づいており、反証は困難です。この状況下、我々市井に暮らす者達は、何をするべきなのか?

保守の小さな団体が集まり、協議会を作り、頻繁に議論を行なっています。「国史 奈良の変」で報告された事実を、世間一般に知らせ、真相を求める国民運動へと昇華させる」、これがテーマです。

*安倍元総理暗殺の真相を求める会理事 保守合同連絡協議会理事



安倍晋三氏の路線を継承しよう

上薗益雄 保守政治活動家

1995年、イギリスは、次の世紀のリーダー国を選定した。それは日本である。20世紀のリーダーは、アメリカである。アメリカは、20世紀中に60回以上戦争を行った。結果、多くの国の政体を破壊し、難民を生み出してきた。日本をリーダーにして、それをイギリスとアメリカが支えれば、世界の秩序は安定するだろうというのが、イギリスの構想である。安倍首相は、それに応えるべく活動した。納得しないのは、アメリカである。国力、軍事力で勝るアメリカが、日本の風下に立てるわけがない。アメリカは、アフガニスタンから撤退するにあたり、中村哲氏を殺害した。IS(イラク、レバントのイスラム国)というのは、CIAの別働隊である。そして奈良で安倍首相を暗殺した。奈良県警は、医者と異なる見解を出した。でたらめな見解を出し、それを押し通せるのは、アメリカの力が働いているからである。日本人は、目を遠くに据えて、アメリカの時代が終わることを見据え、この世界をどう再構築すべきか考える必要がある。それが、世界のリーダー安倍晋三への追悼である。

Shinzo Abe Memorial Symposium 2024

"National History: The Nara Incident"
How do we, the people, perceive the Nara Incident?

